Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：2010.2
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.45

CONTENTS

- 銀塩写真の魅力･･･ゾーンシステムを巡って（2）
- ファインプリント写真展「モノクロームへの誘い」見学会報告
- ゾーンシステム研究会第14 回写真展全作品
- ゾーンシステム研究会第14 回写真展スナップ
- ゾーンシステム研究会第14 回写真展 Technical Information
- ゾーンシステム研究会作品日本カメラ誌に掲載
- ゾーンシステム研究会第14 回写真展メディア掲載
- 研究会員の展覧会
- 千葉撮影会報告
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

銀塩写真の魅力
ゾーンシステムを巡って（2）

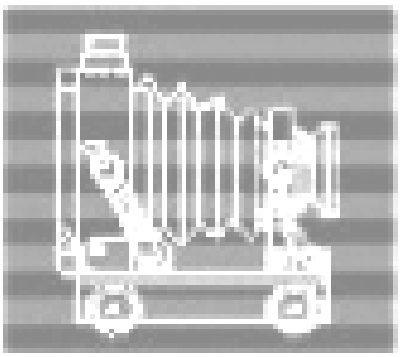
中島秀雄

銀塩写真のネガは、版画の版木に似ている。版の良し悪しで、その後のプリントに大きな影響を与えるのもネガと同じだ。しかし、版木は試し刷りによって修整することもできるが、写真の場合、ネガ修整することはないし、不可能だ。それゆえに写真は、信憑性が保持されている。表現のためにあえてネガにキズをいれたりする写真家もいるが、二度と元に戻らない。しかし、一般の人たちはネガに興味を持つことはなく、写真家も見せない。実は、ネガには、それまでに費やした時間と空間、瞬間と永遠、現実と幻影、アイディア、思索、そして、生活のすべてが銀粒子の一粒一粒に埋もれているのだ。

私は、それまで、表現のためにはアイディアやコンセプトが大事で、ネガは付随的なものとしか考えていなかった。ネガの重要性を知ったのは、写真家の細江英公氏の助手になってからだ。細江さんは、写真作家としてすでに高い評価を得ていて、多くの作品を世に送り出していた。驚いたのは、細江さんの強烈な作品からは想像できないくらい几帳面にネガ整理が出来ていたことだ。ネガ台帳、コンタクトプリント、ネガファイル、そして全てに共通する通し番号が書き込まれ、ネガ台帳から日付、内容、番号を確認し、コンタクトプリントからネガを見つけることまでスムーズに進められるようになっていた。ネガやコンタクトプリントを見ることは、作家の創作プロセスや作品の秘密に触れるに等しく、夢中で眺めたことを記憶している。そして、さらに驚いたのは、作品のテーマに合わせてネガの様態はそれぞれまったく違っていた。ある作品は製版用フィルムが多用され、別の作品は多重ネガ、他の作品は薄いネガというように作品の強烈な個性はネガにあり、ネガ作りは写真家にとって創作行為の一つで避けて通れないプロセスであることを知った。

そして、助手の私は、ネガ作りからプリント制作までの一切をまかされるときがやってきた。

注）上記記事は、2009 年 6 月 9 日～6 月 27 日開催の「銀塩写真の魅力」展（ギャラリーときの忘れ物）開催時の小冊子／ブログ用に書かれた文からの引用です。



ファインプリント写真展 「モノクロームへの誘い」見学会報告

荒井崇

・日時：2009 年 11 月 21 日（土）14:00-16:00
・場所：ギャラリーフォトス
・参加者：中島代表、古谷津、倉又、岡崎、圓子、山本、畑、荒井、北野、橘田、宮内

2009 年 11 月 17 日～28 日、ファインプリント写真展「モノクロームへの誘い」が開催された。本展は、中島代表を始めファインプリント作家の作品展。研究会として出品作家のトークを含む見学会を企画した。

場所は外苑前のギャラリーフォトス。以前、研究会写真展の会場として利用したことがあるギャラリーで、当時は「ギャラリー青山」という名称であった。今回より「ギャラリーフォトス」という名称に変更。写真に特化したギャラリーにリニューアルしている。

そもそも今回の企画展は、リニューアルのためのこけら落としである。テーマはファインプリント。日本写真界におけるファインプリントのジャンルは、非常に評価されにくく目立たないのが現状。何とか目立つようにしたいというのが今回のテーマだ。

そこで中島代表、及び中島代表と親交の厚い４人の作家に声を掛け、今回の展覧会に至ることになった。基本的にこの５人の作家はファインプリントを手がける作家であるが、それぞれ表現や手法が異なる。（特に春日氏はデジタルも取り入れている。）しかしながらそのモノクローム作品の完成度は絶品。それぞれ異なる表現と異なるプリントトーンで見る者を圧巻していた。

そしてなぜか、この５人の作家たちはお互いを

尊敬し、更にお互いにあこがれさえ感じているという。敵対する作家が多い中、とてもすばらしい作家同士の交流である。

今回は、５人の出品作家に簡単なトークを行っていただいた。以下作家の経歴も含めて紹介したい。

【春日広隆 氏】

５人の中で唯一、デジタルモノクロームプリントを行っている作家である。長年アメリカに在住していたため、アメリカの自然風景をモチーフにしたものが主体。銀塩とは異なるトーンで再現したすばらしい作品を制作している。

研究会では 2008 年 5 月、伊豆撮影会の折、春日氏のアトリエを訪ねて話を伺ったことを記憶している人も多いのではないだろうか。

（詳細は会報 no.41 参照）

基本的に、ハイクオリティーモノクロデジタル出力は予想以上に苦労が多いという。いかに諧調性を出して自分の表現意図を出せるかがポイント。原版は 8x10,4x5 のポジが多い。スキャンの段階で、まずどれだけ多くの諧調情報を取り出せるか。そしてプリンター出力は、グレー７色の特殊メーカー製インクと相性の良い紙をどう使いこなすか。インクの沈殿による特性変化をどうクリアするか。最近は一部デジタルカメラも駆使し

始めたがこれもまた難しい。手法をまちがえると、デジタル特有の粗悪な仕上がりになってしまう。そして意外と大変なのが空のトーン。デジタルは単純なトーンに弱い。うまく処理しないとわずかな筋が出てしまう。・・・とにかく難問だらけだそうである。

なお、今回の作品は、フロリダ、ニューメキシコのアコマインディアン部落など。ここでアコマインディアン部落は、撮影が許されている数少ないインディアン部落のうちの１つだそうである。

また、作品は自由にトリミングを行う主義。縦横比率も自由に変えてしまうという。

［経歴］

1946年長野県生まれ。IT企業に勤めたのち写真作家となる。現在は国際的な視野をもつ写真作家として、日本と米国を中心に作品制作と展示活動を行っている。また、ワークショップなどを開催して日本におけるデジタル高品位モノクロームプリントの普及活動も行っている。
日本写真家協会JPS／2004展優秀賞。
日本写真作家協会会員。
ニューヨーク市 SOHO Photo Gallery 会員。
カリフォルニア大学および大学院卒。
●写真研究
・John Paul Caponigro 氏、Sally Gall氏、Jean Miele 氏に師事
・ニューヨーク市 International Center of Photography (ICP)
・サンタフェ市 Santa Fe Photography Workshops

【土居慶司 氏】

土居さんは、例会にゲストで来ていただいたこともあり研究会とも親交が厚く、土居さんの技法を取り入れた会員も多い。

土居さんも春日さん同様、アメリカ在住が長い。一時期はアメリカのファインプリント作家モーリー・ベアーとも親交があったという。1995 年に、ジョン・セクストンのワークショップゲストでモーリー・ベアーが来ていたのがきっかけとなり知り合い、彼から写真表現及び古典技法を学んでいる。古典技法とは、フィルム現像はパイロ現像、プリント現像はアミドール現像で、いずれもエドワード・ウェストン流の手法である。モーリー・ベアーは出会って半年後に亡くなったが、その教えは土居さんに引き継がれ、現在日本で私たち研究会の一部メンバーに伝承されたのである。（モーリー・ベアーは、日本ではあまり知られて無いが、アメリカ西海岸では著名な写真家である。近いうちに資料を会報に載せたいと考えている。乞うご期待。）

モーリー・ベアーは、「なぜ写真を撮るか」常にそう問いかけをしていたそうである。
「なぜ写真を撮るか」土居さんにとって撮影は被写体との遭遇が原点。被写体を限定することはしないという。

今回の出品作品は、アメリカネバダピラミッドレイク湖畔の車の残骸、ネバダの砂漠にある湖、グランドキャニオンへの道、デスバレーなど数点。

パイロ現像の特徴は境界線の鮮鋭度が持ち味、粒状性は決して良いとはいえないという。しかし、独特の深みを感じられるすばらしいイメージである。

［経歴］

千葉県東金市生まれ。アマチュアの風景写真家であった父より撮影・暗室技術を学ぶ。爾来、一環して、モノクロ

ーム写真による表現を追求。その後、米国ウェスト・コースト・スクールの写真家との交流を通じて、彼らの一部が伝承してきた、古典的な銀塩写真技法を用いている。近年では、より多様な表現方法を模索するため、様々な技法を試みている。

主な展示会、及び、契約ギャラリー：

・1996センター・フォー・フォトグラフィツク・アート、カーメル、カリフォルニア
・1997バロアルト・カルチャル・センター、バロアルト、カリフォルニア
・1998カルーメット、サンフランシスコ、カリフォルニア
・1998アンセル・アダムス・ギャラリー、スパニッシュ・ベイ、カリフォルニア
・2000カリフォルニア州政府、東京
・2002国際文化会館、東京／ヴオーパル・ギャラリー、サンフランシスコ、カリフォルニア
・2003 麹町フォトギャラリー、東京（桑原甲子雄リプリント）

【岡崎正人 氏】

筆者が岡崎さんの作品を最初に見たのは 1996 年、渋谷の EGG ギャラリーである。もうかなり前に閉館してしまったギャラリーだが、確か渋谷公園通りを渋谷公会堂へ向かって歩き、細い道を右に曲がった場所にあった記憶がある。（当時荒木経惟さんの個展を頻繁に開催していたギャラリーだ。）

当時岡崎さんの写真展は、私にとって大変衝撃的であった。胸の透くようなハイライトと徐々に沈んでいく深いシャドー。そのトーンに感動してしまい、被写体が何かということは忘れてしまっていた。よく写真学校の先生に言われたことがある。「トーンがどうのこうの。そればかり考えていると良い作品はできない。写真は工芸品ではないのだから。」しかし岡崎さんの作品は違う。そのトーンだけでも作品になってしまう。もちろん岡崎さんの作品は、産業遺産や廃墟など被写体の

捉え方もすばらしい。しかし、やはりその独特なトーンは、それだけでもアートと言えるのではないだろうか。工芸品としての写真があってもよいのではないだろうか。当時私はそんなことも考えた。その後岡崎さんの個展は全て見に行った。作品も３点購入。作品引取りの際は、岡崎さんの暗室見学までさせていただいたこともある。

今回中島代表が岡崎さんに質問した。「私たちがいやがるようなコントラストの高い被写体が多いが、いずれも美しいトーンに仕上げている。どうやって処理しているのか。」岡崎さん曰く「被写体によって特性の異なるフィルムを使い分ける。質問のようなコントラストの高い被写体には決して柔らかいフィルムは使わない。むしろガンマの高い硬いフィルム（テクニカルパン）を使う。柔らかいフィルムではねむくなってしまう。」とのこと。テクニカルパンをどのように処理し、どのようにプリントするか詳細はわからないが、通常の現像処理ではとても考えられない技術である。ちなみにテクニカルパンは製造中止になる前、大量に買い込んで冷凍しているという。

また、今回の作品には使用してないが、時にはデジタルマスク（インクジェットプリンターで透明フィルムにプリントアウトし、ネガに重ねる覆い焼き手法）も使用するという。ただしネガに重ねる際は少し離したほうが良いとのこと。また今

回話には出なかったが、覆い焼きの際、型紙を糸で吊るしてしっかり位置決めを行うという話も聞いたことがある。やはりそれなりの手間をかけてこその、岡崎流ファインプリントである。

最近は、ニューヨークのギャラリーでも作品を販売しているそうで、今後の更なる活躍を期待したい。

[経歴]
・高知県出身
・日本大学芸術学部で写真を学ぶ。
・1980年より本格的に作品制作にとりかかり東京を中心に8回の個展、
・2005年よりニューヨーク　チェルシーで2回の展覧会。
・題材にこだわらない抽象的な表現でgelatin silver printによるファインプリントを制作。

【鈴木秀ヲ 氏】

鈴木さんは、以前研究会で大変お世話になった作家である。2001 年 2 月、研究会総会での講演。また同年 4 月、静物撮影会において指導もしていただいた。（詳細は会報 no.19 参照）

鈴木さんは、少年時代の実験器具や玩具などをモチーフにした静物写真が代表作。ヨーロッパの賞も受賞している。写真集「少年の科学」は、ご存知の方も多いのではないだろうか。今回出品作品も写真集「少年の科学」掲載の作品であるが、

体調の問題で新規プリントができず、印刷原稿用プリントを展示したとのことである。

これらのモチーフは、当時何とゴミ捨て場から集めたものが多かったという。当時はゴミ捨て場から持ち出しても何も言われない時代であり、家庭で不要になった子供の玩具や実験器具が簡単に手に入ったそうである。

作品のイメージは必ずラフスケッチを書くが、なかなかうまくイメージどおりにならないことが多いらしい。うまく行かない場合は、数日モチーフを台に置きっぱなしにしてイメージを高めるという。

この写真集作品は、１カット１日～１週間かけて撮影。トータル約５年かけて撮影したものである。

フィルムはテクニカルパン＋テクニドール。印画紙は２浴現像＋セレニウムトナーを使用。（ただし最近は喉がやられるので Ag ガードに変更）照明は全てストロボ、露出が足りない場合はストロボを数回焚くという。技術的にも大変完成度が高い作品である。

[経歴]
・1953年　東京生まれ
・1976年　東京造形大学卒業
・80年代より自身の中にある少年性を核とした「もの」への愛着を形にした作品の制作、発表を続ける。
・1995年　写真集「Pater Noster 少年の科学」出版
・1996年　日本写真協会新人賞受賞
● 主な個展
「メルカトルの球体収差」「午睡する理科室」
「The GEOLOGY」「少女の家政学ドールハウスの場合」
「空のしたたり」「景の在りか」他多数。

【中島秀雄 氏】

中島代表についてはみなさん御存知なので、作家紹介のコメントは省略する。

今回は、今年の研究会写真展に出品したゆりの作品も出品された。ゆりは根が食べられるため、子供の頃よく採りに行ったという思い出のモチーフとのこと。

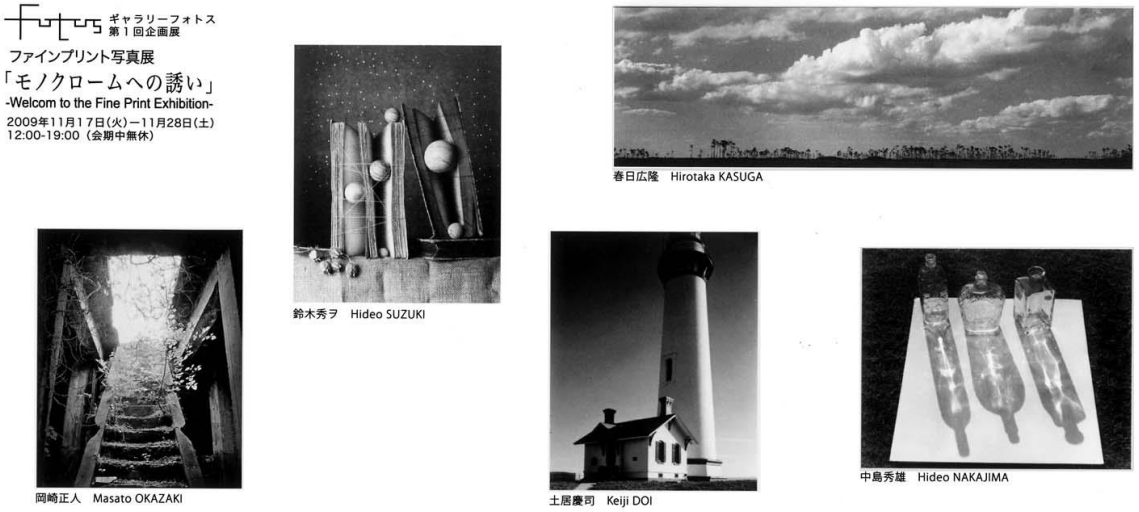
イチジクの作品は、御存知ボタニカシリーズの１つ。8X10 カメラを固定するのに大変な苦労があったという。また、背景の医学書はそのまま使うと裏面の印刷が透けて見えてしまうため複写したものを使用。やはり手を抜かないこと。静物撮影の難しさはそこにあるのではないだろうか。

その他の作品も身近な物を撮影した作品。撮影会での作品、研究会写真展出品作品など、全て研究会のメンバーは目にしている作品である。

以上、大変見ごたえのある写真展であった。筆者はみなさん御承知のとおり写真をコレクションしているが、奇しくも５人の作家全員の作品をコレクションしている。筆者としても、非常に感慨深い写真展であった。

ファインプリント系作家が認められない現在日本において、これだけの作家がすばらしい作品を作り続けていたという事実は、後世になって日本写真界の重要な歴史となるに違いない。

［経歴］
- 神奈川県生まれ
- 東京写真大学（現・東京工芸大学）卒業
- 細江英公氏のアシスタント　細江英公オリジナルプリント展のプリント担当
- 米国・ゾーンＶＩワークショップに参加
- ゾーンシステム研究会設立・代表
- ジョン・セクストンのレクチャーを受ける
- 個展、グループ展多数　東京工芸大学非常勤講師、京都造形芸術大学・通信講座講師

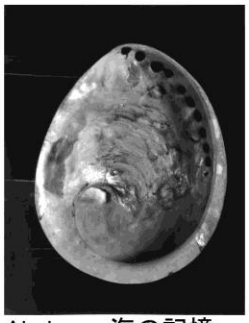


ゾーンシステム研究会第14回写真展［光への探求］全作品(1/3)

富士フィルムフォトサロン［2009年11月6日（金）～11月12日（木）］

午後の時間
中島　秀雄

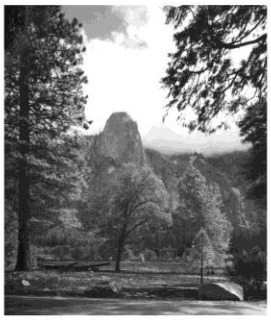
Cloudscape
中島　秀雄



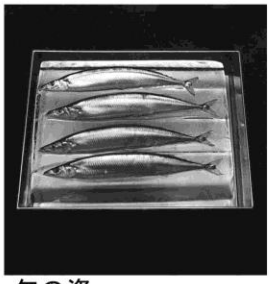
Abalone, 海の記憶
中島　秀雄

氷海を泳ぐ
中島　秀雄

神戸メリケンパーク
倉又　茂

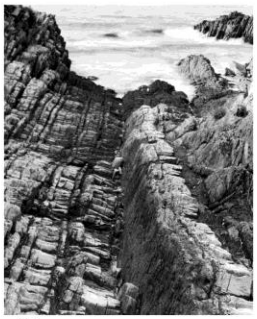


Cathedral Rock
倉又　茂



旬の姿
鈴木　武志

凍てるモンステラ
鈴木　武志



海へ
酒巻　澄江

ココナッツ・ビーチ
岡崎　克之

回廊・アンコールワット
岡崎　克之

清涼
酒巻　澄江

ゾーンシステム研究会第14回写真展［光への探求］全作品(2/3)

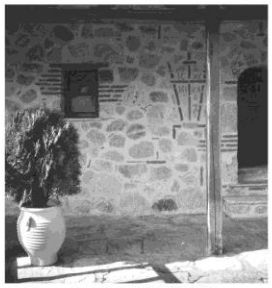
富士フィルムフォトサロン［2009年11月6日（金）～11月12日（木）］

ROCK

宮岡 貞英

上輪集落

松本　ひさ子



メティオラの修道院

松本　ひさ子

森の精

圓子　靖也

a symphony（交響楽）

古谷津　純一

a fortress（要塞）

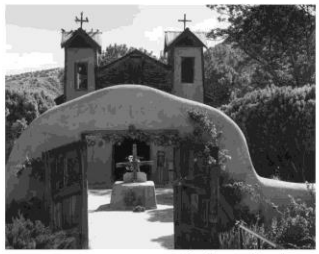
古谷津 純一

波

小菅　秀一

海景

小菅　秀一



CHIMAYO　アドビの教会

橘田　功

fantasia

北野　龍一

déjà-vu

北野　龍一

寄せる波

橘田　功

ゾーンシステム研究会第14回写真展［光への探求］全作品(3/3)

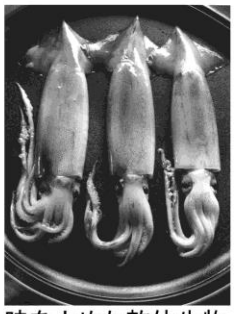
富士フィルムフォトサロン［2009年11月6日（金）～11月12日（木）］

岩山

岸　芳明

首都圏外郭放水路

岸　芳明



時を止めた軟体生物

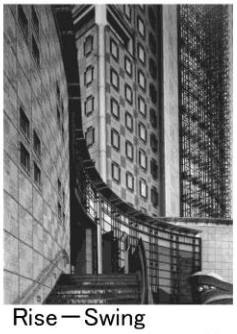
石井 政吉

Dawn, Lake Shirakoma

畑　文夫

Pond and Tower, dusk

畑　文夫

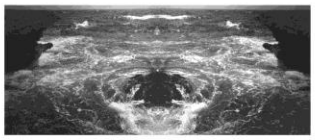


Rise－Swing

長谷川　登

毀されたグラス

浜野　次郎



はじめに宇宙は水であった

浜野　次郎

漁港･6月朝

長谷川　登

horizon

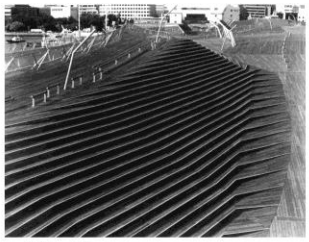
藤田　昇

棚田残照

藤田　昇

バリ人

越後　久雄



Big Pier

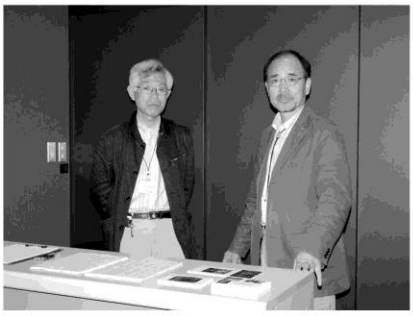
荒井　崇

Schoolhouse

荒井　崇

ゾーンシステム研究会第14回写真展スナップ

展覧会会場



受付

展覧会会場入口

展覧会会場

パーティ会場

パーティー会場
（左：レビンソン氏、右：土居氏）

パーティ会場（中央左：相川氏）

パーティー参加者と集合写真

ゾーンシステム研究会　第14回写真展　ファインプリント～光への探求　2009年11月6日-12日　富士フイルムフォトサロン/東京

テーマ　“海”

	タイトル	作者	フィルム	レンズ	絞り	スピード	キーゾーン	シャドウ	ハイライト
1	horizon	藤田　昇	4x5	150mm	f64	1/4秒	空 (V)	海 (III-IV)	雲 (VII)
2	a symphony (交響楽)	古谷津 純一	8x10	190mm	f32	1/10秒	白い波 (VII)	岩肌 (II)	太陽 (IX)
3	寄せる波	橘田　功	4x5	360mm	f11	1/60秒	白い波頭 (VIII)	砂浜 (IV)	寄せる波 (VII)
4	海景	小菅 秀一	4x5	90mm	f45	1/2秒	砂浜 (IV)	下の岩 (II-III)	空 (VIII)
5	岩山	岸　芳明	6x7	80mm	f11	1/15秒	---	---	---
6	海へ	酒巻 澄江	4x5	300mm	f64	2秒	岩 (V)	岩肌 (III)	波 (VIII)
7	はじめに宇宙は水であった	浜野 次郎	4x5	120mm	f22	1/125秒	海面 (V)	岩 (III)	---
8	神戸メリケンパーク	倉又　茂	4x5	90mm	f11	2分	---	---	---
9	上輪集落	松本ひさ子	4x5	150mm	f64	1/15秒	黒屋根 (II-III)	山肌 (IV)	白壁面(VII)
10	漁港・６月朝	長谷川　登	5x7	210mm	f22 2/3	1/4秒	中央水面 (IV)	---	左端の船体 (VIII)
11	déjà-vu	北野 龍一	4x5	150mm	f22 2/3	1/30秒	桟橋の板 (V)	ボートの影 (III)	ボートの内側 (VIII)
12	ココナッツ・ビーチ	岡崎 克之	4x5	150mm	f45	1/30秒	ココナッツ (V)	船体の黒 (III)	客船の窓枠 (VII)
13	Big Pier	荒井　崇	4x5	210mm	f45	1/8秒	影 (IV)	影 (IV)	白い建物 (VIII)
14	時を止めた軟体生物	石井 政吉	4x5	150mm	f45	15秒	中央イカ胴体 (VI)	右側イカ中央 (III)	左側イカ頭部 (VIII)
15	旬の姿	鈴木 武志	6x6	210mm	f32	30秒	魚の中央 (V)	暗い影部分 (II)	魚の明部 (VIII)
16	氷海を泳ぐ	中島 秀雄	6x6	50mm	f22	8秒	魚 (IV-V)	上部 (II-III)	氷 (VIII)
17	Abalone, 海の記憶	中島 秀雄	4x5	150mm	f45	15秒	貝の中心 (VII)	背景 (I-II)	貝の反射部分 (VIII)

自由作品

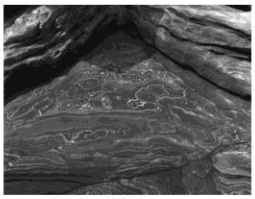
	タイトル	作者	フィルム	レンズ	絞り	スピード	キーゾーン	シャドウ	ハイライト
1	Dawn, Lake Shirakoma	畑　文夫	4x5	300mm	f45	1秒	白樺 (VII)	水辺の潅木 (III)	白樺 (VII)
2	Cathedral Rock	倉又　茂	4x5	90mm	f32	1/15秒	---	---	---
3	fantasia	北野 龍一	4x5	150mm	f32 2/3	8秒	樹の幹 (IV)	流れの影 (III)	波 (VIII)
4	森の精	圓子 靖也	4x5	210mm	f45	4秒	森全体 (III)	森全体 (III)	遠方木立 (VI-VII)
5	ROCK	宮岡 貞英	6x4.5	80mm	f16	1/50秒	岩肌 (V)	岩の上の影 (III)	岩の上面 (VIII)
6	清涼	酒巻 澄江	4x5	120mm	f45	4秒	細い水の流れ (VI)	中央の苔 (II-III)	左手前水辺 (VI-VII)
7	a fortress (要塞)	古谷津 純一	8x10	190mm	f45	1/5秒	要塞 (IV)	手前の水辺 (II-III)	空 (IX)
8	パリ人	越後 久雄	4x5	210mm	f22 2/3	1/8秒	フェイス (V-VI)	ヘアー (III)	---
9	回廊・アンコールワット	岡崎 克之	4x5	150mm	f45	1秒	僧侶の顔 (V)	天井 (IV)	左の石柱 (VI)
10	Pond and Tower, dusk	畑　文夫	4x5	210mm	f221/3	1/8秒	道路 (V)	中央の樹木 (III)	田圃の水面 (VIII)
11	棚田残照	藤田　昇	4x5	210mm	f64	1秒	水面中央の雲 (IV-VI)	土手影の部分 (II-III)	光る棚田 (VIII)
12	首都圏外郭放水路	岸　芳明	6x7	75mm	f22	1分	---	---	---
13	Rise－Swing	長谷川　登	5x7	150mm	f32 1/3	1/2秒	左側の壁面 (V)	庇の内側暗部 (II-III)	中央最上部 (VII)
14	Schoolhouse	荒井　崇	4x5	210mm	f45	1/4秒	影 (III)	影 (III)	白い窓 (VIII)
15	CHIMAYO　アドビの教会	橘田　功	4x5	180mm	f64	1/4秒	門のハイライト (V)	教会の右の塔 (III)	中庭 (VIII)
16	Cloudscape	中島 秀雄	4x5	210mm	f45	1/15秒	雲(VII-VIII, IX)	林 (II)	雪, 雲 (VIII-IX)
17	波	小菅 秀一	4x5	210mm	f45	1/2秒	砂浜 (VI)	波の影の部分 (IV)	白い波 (VII-VIII)
18	メティオラの修道院	松本 ひさ子	6x6	75mm	f11	1/60秒	石の壁 (V)	戸口の奥 (II)	植木鉢 (VII)
19	毀されたグラス	浜野 次郎	4x5	150mm	f45	6秒	グラス中間調(IV)	背景 (II)	グラス明部 (VIII)
20	凍てるモンステラ	鈴木 武志	6x6	210mm	f45	35秒	葉 (II)	氷の左部分 (III)	氷の明部 (VIII)
21	午後の時間	中島 秀雄	6x6	50mm	f22	4秒	ユリの花(VI, VII, VIII)	背景 (III)	ユリの花 (VIII)

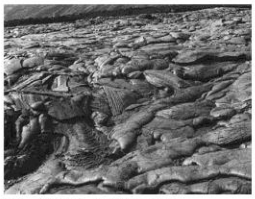
ゾーンシステム研究会作品日本カメラ誌に掲載

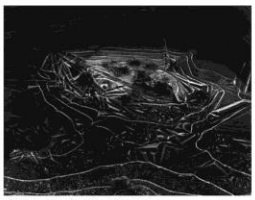
2008年研究会写真展作品が、日本カメラ誌2009年11月号に「クラブ誌上展」として紹介されました。
写真展日程案内も同時に記載され、広報に大変役に立つページとなりました。

『Half Dome』倉又 茂

『波・上げ潮の残影』石井政吉


『海の堆朱』北野龍一


『黒い世界 1』宮岡貞英

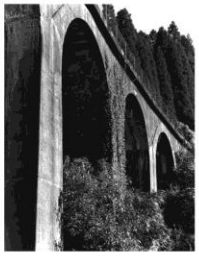

『薄氷の形象』藤田 昇

『雪山景』宮内廣仁

『tunnel』越後久雄

『防波』岸 芳明

『騒めき』酒巻澄江


『橋脚』荒井 崇

『ヨセミテの滝』圓子靖也

『レジャー』岡崎克之

『残照』加藤貞雄

『無限への遡行I』佐野司郎

『Junction』畑 文夫

『Bridgeport Community Church, Calif.』中島秀雄

『ポトス』浜野次郎

『かぐやの見た海』橘田 功

『dancing tree（舞）』古谷津純一

『鳳凰』松本ひさ子

『船の残骸』小菅秀一

ゾーンシステム研究会第14回写真展メディア掲載

（日本カメラ2009年11月号
「クラブ誌上展」掲載）

◉ゾーンシステム研究会

アンセル・アダムス提唱のシステムを活用し、広めていきたい

当研究会は、アンセル・アダムスが考案したゾーンシステムを作品制作に運用しています。

活動としては、まずワークショップや例会でカメラやフィルム、印画紙の特性を理解することからスタートします。そして大型カメラを使用しながら自然風景、都市、日常の細やかな変化に目を向け、作品講評によって年に一度の展覧会へと進めていきます。

私たちは光と露出、現像とプリントの関係を明快にしてくれるゾーンシステムを、銀塩モノクローム・ファインプリント制作にとって最も合理的な方法と捉え、写真愛好家及び一般の人たちにこのシステムを伝えることも研究会の目的としています。

◉設立　1995年
◉会員数　35名　代表：中島秀雄
◉活動　例会：毎月1回（土曜日・横浜）／作品展：年1回／撮影会：年4回／暗室ワークショップ：年1回／会報誌発行：年3回／その他：講演会開催、作品販売、コレクション活動、展覧会鑑賞会
◉連絡先　畑 文夫　zonesystem@u01.gate01.com
◉URL　http://hw001.gate01.com/zonesystem/

ゾーンシステム研究会 第14回 写真展
【ファインプリント 光への探求】
11月6日（金）～12日（木）10時～19時（最終日14時）
富士フイルムフォトサロン（東京・六本木）☎03-6271-3351

投稿お待ちしています!

あなたのクラブの写真展を本誌で行いませんか。
◉クラブの紹介記事400～500字程
◉集合写真と作品（キャビネ判程のサイズ・スライド可）
◉クラブ概要（設立年、会員数、活動内容、連絡先）
をクラブ誌上展係までお寄せ下さい。

（アサヒカメラ2009年11月号掲載）

「ファインプリント　光への探求」
ゾーンシステム研究会

11月6～12日　東京（六本木）：富士フイルムフォトサロン
東京　✆03-6271-3351

ひとこと■「研究会では、プリント制作のネガづくりに多くの時間を使い、個人のイメージに適したネガづくりの優れた技法に長年取り組んできました。銀塩写真のプロセスの豊かさと奥深さを改めて感じます。モノクロ40点展示」

Lily　中島秀雄

（フォトステージ2009年11月号掲載）

写真展 自薦 いろいろ 他薦

「しぎ」©中島秀雄作品

※ゾーンシステム研究会 第14回写真展＝ゾーンシステムを駆使した銀塩モノクローム・ファインプリントの魅力を写真愛好家および一般の人たちに伝えることを目的とした研究会で、内容を次の通り説明している。「美しい風景も実は複雑な光や形からなっていて、それを写真に捉えるためにはカメラが見るように対象を見る必要がある、と常に考えてきました。そこで私達は、カメラ、フィルム、印画紙等の特性を充分に理解することからスタートし、その後自然風景や都市風景、日常の細やかな変化にカメラを向けるようにしてきました。しかし、様々な被写体にカメラを向けたとしても、必ず作品になるとは限りません。私達は、何故カメラを向けたのか、それが分かるまでシャッターを切ることはありません。今回の作品は、日本をはじめ海外にも被写体を求め、また新たに海をテーマとして追加し、それぞれの空間の中に普遍的な形や美しい光を探求してきた結果です」。会場は富士フイルムフォトサロン東京。会期は11月6日～12日。

研究会員の展覧会

【畑文夫さん写真展「Sometime Ago」開催】

2009 年 9 月 29 日～10 月 12 日、研究会会員 畑文夫さんの写真展が開催されました。

[作者コメント]

1969 年からの約 10 年間に撮った、東京都内と近郊のスナップショットを展示します。
都電が姿を消していき、後に副都心と呼ばれる広大な空き地があった頃。膨大な時間がながれていながら、過ぎてみれば「ほんの先だって」のように思える昔のことです。

「無造作にカメラを振り回せば、時代の空気が写るかもしれない...」
そんな風に勘違いしながら撮った写真ですが、40 年という時を隔ててみると、技術の未熟さを承知しつつ新たにプリントしてみたいという思いに駆られました。

【橘田功さん写真展「樹霊」開催】

2009 年 11 月 26 日～12 月 2 日、研究会会員 橘田功さんの写真展が開催されました。

[作者コメント]

三宅島はご存じのように火山の島。その活動は、1085 年から 1983 年までに 15 回噴火したという記録が残っている。山頂噴火により溶岩流が起こり、

学童疎開を余儀なくされ、集落の 7 割が埋没、焼失した時も有った。特に 1983 年と 2000 年の火山活動は凄まじく、島民のみならず私たちにとっても記憶に新しい。

2000 年 7 月に起こった三宅島雄山の噴火は、この島の豊かな自然に壊滅的な打撃を与えた。雄山山頂にカルデラが出来るとともに多量の有毒ガス、二酸化硫黄が放出されたため、9 月に全島民は島外に避難した。しかし、大地に根付いた樹木は、もちろんのこと避難することは出来ないため、高濃度の有毒ガスに晒され苦しんで逝くのみ。樹々の思い、怨念は・・・。

2005 年に非難指示は解除され、島民は島へ戻り生活が始まっている。しかし残された樹々は白骨のようになって山肌を覆い死の世界を形成している。吹き抜ける風音は樹々の亡霊の叫びにも聞こえる。これも自然界の摂理かも知れない。受難の木々の姿を、モノクロームゼラチンシルバープリント約 30 点に託してお伝えします。

千葉撮影会スナップ

レビンソン氏からレクチャーを受ける

レビンソン氏をモデルにポートレート実習

●日時：2009年11月28日（土）～29日（日）
●場所：鴨川・御宿周辺
●撮影地：エドワードレビンソン氏(写真家)アトリエ／福田真木子氏(ガラス工芸家)アトリエ/ 海岸
●参加者：中島代表、石井、岡崎、葛城、金子、小菅、松本、宮内、宮岡、山本、北野、越後、鈴木（武志）、浜野、倉又
●今回のテーマは、外房の海の撮影と、ピンホール写真を得意とする写真家エドワード･レビンソン邸を訪ね、レビンソン氏のポートレート撮影とレクチャーを受けることだった。その後時間に余裕があったことから、ガラス工房見学が追加された。
今回は、海の撮影のみならず、2人のアーティストのアトリエを訪問し、アトリエ見学と同時に、アーティスト自身のポートレートを撮影した。
2010年のテーマは「人物」。今回、人物撮影の難しさと楽しさを経験することが出来た。

ガラス工芸家福田さんの指導で
ガラスコップの実習

海岸での撮影

撮影の合間に情報交換

ゾーンシステム研究会定例会日誌

2009年10月10日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、荒井、松本、古谷津、小菅、鈴木（武志)、圓子、長谷川、岡崎、浜野、石井、倉又、岸、酒巻、葛城、北野

・作品持参者：多数（写真展出品作品チェック ）

●中島代表の御話概要

写真展作品のチェック作業を振り返って：

・ネガ作りが肝要だが、プリントでは思い切ったこともやってみてほしい。(空をいつもより少し強く焼きこんでみる等)

・フィルム現像では、暗室ノートを作り、毎回現像の状況・データを記録しておくことが後日役に立つ。ネガ濃度変化の原因が露光にあるのか、現像方法にあるのか見つけることにつながる。

・プリントでは、プリントレシピに記録して進めることで、プリント全体のバランスが分かる。

・毎回言っているように、コンタクトプリントは必ず作るよう習慣づけておくこと。フイルムだけ送られてきてプリントを頼まれても、コンタクトがないと出来ないこともある。プリントに際しては、まずコンタクトと同じプリントを作ってみるのがいい。それをもとにして色々と作って行くのが効率的。さもないと印画紙を何枚も使ってしまうことになる。

・何を撮って行くかについては、人夫々に好きなジャンルがある筈で、そのジャンルの中で写真を作って行くのがよいのではないか。例えば、電車、飛行機の中に美しさを見つけ写真にする。ただしマニアックな写真はさける。

・年初に写真を沢山撮れと云った。最低でも４x５なら１００枚、ブローニーなら３０本と云ったように記憶する。年末に各人何枚撮ったか数えてもらいたいと思っている。

自分（中島代表）は、最近フイルムを TX から TMAX に替え、現像液も替えた。その為にテストをやったが、それだけでも 100 枚近く使ってしまう。100 枚と云うのは決して大きな数字ではない。

●写真展について

・10 月 17 日、額装作業を反町の田中英司氏のアトリエで行う。

・出展者は原則として全員参加を要請。

作品は 2 点提出。(展示用とスキャン保存用)

・当日はできるだけスリッパを持参のこと。

・参加出来ない人は、前日必着で中島代表の自宅に作品並びに額を届けること。

・その際、サインを忘れないこと。額は原則として段ボールの箱に入れること。等をお願いした。

・写真展会期中の当番を出展者は少なくとも一回は当番に当たることをお願いした。

・オープニングパーティー兼親睦会は 11 月 7 日（土)19 時から 21 時の予定で、六本木"DoRa Deux"に於いてパーティーを開催。(www.dora.jp/dd/)

・オープニングパーティであると同時に研究会の懇親会とする。従って、事務局から会員全員に参加を呼びかけて貰う。(会費は一人 4，000 円)

●秋の撮影会について

・会の年間行事として撮影会がもう一つ残っているので、これを千葉のレビンソン氏訪問を兼ねて 11 月末若しくは 12 月に 1 泊 2 日で開催予定。出席者に参加希望者を聞いたところ、約 10 名の方々が参加を希望。今後レビンソン氏との間で日時を調整する。

●来年度写真展について

・来年度はシリウスを考えているが、今年度写真展終了後、速やかにシリウスプレゼン用の写真を

各自用意してほしい。
・会場としてコニカも考えてはどうかとの意見が出された。将来の可能性として、長谷川会員に当たってもらうこととした。

●荒井氏からポートフォリオについての提案

・ポートフォリオについて、参加の意思表示は、総勢 10 人強と少ない。11x14 サイズで 50 枚と云ったのがネックになっているかもしれないので、第 1 回のポートフォリオでもあり、8x10、30 枚に変更。再度参加者を集めたいとのこと。(目標参加者は 15 名以上)

●北野氏から、ラピッドセレニウムトナーについての連絡

・銀一並びに国内のコダック代理店が在庫販売を中止したため入手困難となっているが、1 ダース単位に纏まれば銀一で取り寄せてくれることになった。近々会員各位の注文をまとめたい。但し、正確な納期が決められず、デリバリーに数ヶ月掛かる模様。

2009年11月14日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

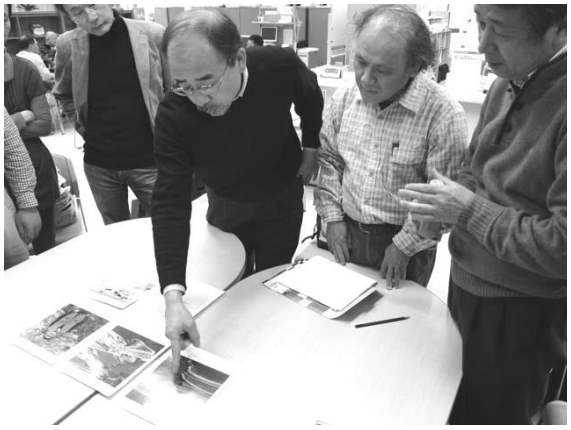
・出席者：中島代表、荒井、松本、古谷津、長谷川、岡崎、石井、倉又、酒巻、北野、畑

・作品持参者：岡崎

●写真展の反省など

・来場者　カウンタでは 4973 人となった。(当番の出入りも含む)
・カラー展示向きの蛍光灯照明なので、ドラマチックな展示にはならなかったのが残念。
・プリントサイズはもっと大きいほうがよいという声が多かった。

●来年度写真展について



・会場は、シリウスをめざす。
・会場確保のプレゼン用に 8x10 で約 40 点必要。12 月例会からコレクションする必要がある。(1 人 3 点以上)
・テーマは「人物」とする。
被写体との「撮る」「撮られる」関係が明確なもの。隠し撮り、スナップショットは不可。
　例)「仕事中の人」「日本に住む外国人」... etc
人との交渉などを通じて様々な問題を解決することが、新しい発見になる。

●来年の総会

　会場を２月６日（土）午後で予約した。ゲストなどはこれから交渉する。

●ゾーンシステム解説書の出版

内容のアイデアなどを倉又氏に寄せてほしい。部数が確保できる内容でないと、編集会議を通過できない。(人気写真家とのコラボなど？)

●その他来年の課題

・研究会の名刺を作りたい。(人物撮影などの交渉時に便利？)
・HP をリニューアルしたい。

2009年12月12日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者:中島代表、北野、橘田、松本、荒井、石

井、越後、古谷津、浜野、酒巻、小菅、鈴木武、倉又、岸、葛城、長谷川

・ゲスト： 佐藤理氏（写真家）

・作品持参者： 無し

●来年の写真展準備

・テーマを「人物」とする。

注）人物撮影について

(1)スナップショットではなく、被写体とのコミュニケーションをとりながら撮影したポートレートであること。

(2)人物の職業と関連付けて撮ることで情報量が増える。（例：仕事の現場で撮るなど）

(3)被写体となる人との交渉、背景の選び方など、今までとは異なる写真作りにチャレンジしてもらいたい。

(3)手などの部分的なクローズアップは不可。

(3)ヌードは原則として不可。（シリウスの方針）

(4)被写体の人数は概ね５人以下。

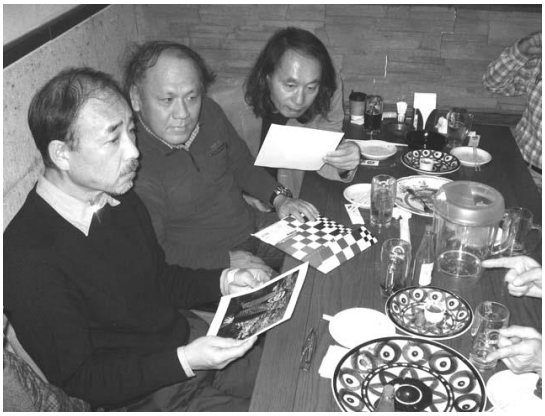
（集合写真のようなもの、大人数の写真は不可）

(5)背景はボケてもＯＫだが、被写体との重なりなどは十分注意すること。

(6)顔が必ず写っていること。（後姿でも振り向いていればＯＫ）

・会場はシリウスを目標にする

・プレゼンテーション用プリントを来年 2 月（2



月 6 日総会）までに収集するので、例会へのプリント持参を進めていただきたい。

サイズは 8×10

主題が「人物」のものがベター

●ポートフォリオの作成計画の一部修正（荒井）

・内容を修正し、多くの会員が参加しやすくする。

・プリントは、8×10、30 点程度にする。

・参加費は１万円以内に収めたい。

（会からの補助も検討）

・１月例会までに参加者決定。７月完成をめざす。

作品は過去の写真展に出品したものから各自のベストを選ぶ。（中島代表と参加者で決定する。）

●写真展の販売手数料について

富士フォトサロンに販売額の 10%を納める規定となっている。通常は研究会に 15%を納めていただいているが、今回は富士フォト 10%＋研究会 5%、計 15%を納めていただくことになる。

●写真展出品作の講評

作品を液晶プロジェクタで投影しながら、作者のコメントや会員の意見を交換、そして中島代表からの講評になった。

●今後の予定

1 月例会 1 月 9 日（土）13 時（役員会は 12 時～）

横浜市市民活動支援センターオープンスペース

2 月総会（例会を兼ねる）2 月 6 日（土）午後

レクチャー講師は調整中

●佐藤理氏レクチャー

「8×10 撮影の問題と工夫」

佐藤氏は 8×10 でギリシャのキクラデス諸島などを撮影されている写真家。

光線漏れや内面反射の対策に独自の工夫を行った内容や、ギリシャ撮影でのエピソードなど、興味深いお話を 1 時間半にわたって披露していただいた。

●忘年会（例会後）

20010年1月9日(土)

横浜市市民活動支援センター会議室

・出席者：中島代表、北野、橘田、松本、荒井、石井、古谷津、酒巻、鈴木武、倉又、葛城、金子、畑

・作品持参者：北野、橘田、松本、古谷津、倉又、葛城、金子

●中島代表より

・皆さんは個展を開く目標を持ってほしい。会員の誰かが、毎年どこかで個展を開いているようになるとよい。過去の写真展に出展したもの、それに新作などを追加すれば 20 点程度でも開催できる。会場のギャラリーについては相談してほしい。

・ノートブックを用意し、「暗室日誌」をつけるようにしたい。その時々のデータなどを記入しておくと役に立つ。ゾーンの捉え方や、現像時間、液温の変化は後日調整に役立つ。

・ポートフォリオについて、候補作品の案を考えた。皆さんと相談しながら決定していきたい。（この案の中で、参加するかどうか本人確認ができてない作品に関しては、後日担当（荒井氏）から問い合わせを行う。）

・今年、自分はトイカメラを使った作品創りも計画している。

・本の紹介：飯沢耕太郎著「写真的思考」河出ブックス　1260 円

●冬の撮影会予定

・ピラタススキー場～縞枯山、北横岳方面

2 月 27，28 日（1 泊）

詳細は事務局で立案し、別途連絡する。

●セレニウムトナーの注文について（北野氏）

現在セレニウムトナーの国内での入手が困難となっているが、カートン（1 ダース）単位に纏めれば、銀一経由入手可能と云うことが判明。

そこで、当会では会員各位に呼びかけ、ダース単位に纏めて発注することにした。必要本数を 1 月末迄に北野宛連絡のこと。

但し、銀一は船便で取り寄せる為、デリバリーに数ヶ月掛かることが予想される。

価格は従来程度（2 千数百円と思われる）とのこと。ただし宅急便程度の国内 2 次運賃は負担していただく。

●「ステップタブレット密着焼き付けイーゼル」について（北野氏）

（元コダックの）井本さんから「ステップタブレット密着焼き付けイーゼル」なるものを多数寄贈頂いた。

これは井本さんと写真器材メーカーISE の共同企画製品で、主に「埋蔵文化材研究所」写真部の為に作ったもののようで、フイルムの感度曲線を作成したり、コダックの所謂 CI(contrast index)を解析する為に作ったもの。ゾーンシステムでは実効感度と云う考え方なので、あまり利用価値はないかも知れないが、会員の方で利用希望者が居れば差し上げたい。

●新例会会場について（参考）

「文京シビックセンター」の情報があり、今後検討していく。

Information

【売ります】

北野龍一

・ステップタブレット密着焼き付けイーゼル

無償で提供。(送料は自己負担)

詳細は定例会日誌(2010年1月9日)記事参照

中島秀雄

・ ZONEVI 5x7 コールドライトトヘッド
（ベセラー用） 28000円

・ ロータリーカッター 3000円

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

[以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。]

1．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリント又は JPEG データでお願いします。

2．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。
- ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの。
（スキャナーでパソコンへ入力します。）
- パソコンの電子メール
- ウィンドウズの Word2000-2003
- text ファイル
（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。）

ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。

3．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

［編集部］ 荒井 崇

［表紙の作品］
- 作者：中島秀雄
- タイトル：午後の時間
- フィルム：6x6
- レンズ：50mm
- 絞り：f22
- シャッター：4秒
- キーゾーン：ユリの花(VI,VII,VIII)
- シャドウ：背景（III）
- ハイライト：ユリの花（VIII）